

顕彰状

鄭眞澤（チョン・ジンテク）氏は、1960年10月3日に大韓民国の大邱に生まれた。1983年に高麗大学校工科大学機械工学科を卒業後、1985年に同大学院で修士号を取得し、1992年にはミネソタ大学にて工学博士号を取得した。

1993年に高麗大学校工科大学教授として赴任後、工学教育センター長（2004年～2006年）、工科大学教学副学長（2004年～2006年）、教授学習開発院(CTL)院長（2008年～2009年）、対外協力処長（2009年～2011年）、機械工学部学部長（2011年～2013年）、工科大学学長兼工学大学院長兼テクノコンプレックス院長（2016年～2018年）、技術経営専門大学院長（2017年～2018年）を歴任した。

2019年から現在に至るまで、高麗大学校第20代総長を務めており、その他にも、韓国工学翰林院副会長（2021年～）、韓国私立大学総長協議会長（2022年～）、韓国大学スポーツ協議会長（2020年～）、ソウル市キャンパスタウン政策協議会長（2020年～）、韓国大学教育協議会副会長（2020年～）、科学技術情報通信部第5次科学技術基本計画樹立委員会委員長（2021年～）を務めている。

このように、鄭氏は、数多くの内外の要職において責務を全うすると同時に、優れた研究業績も上げている。2012年には知識経済部長官産学協同有功者賞、大韓機械学会優秀論文賞を受賞し、2013年には韓国流体機械学会学術賞を受賞している。その他にも、韓国流体機械学会会長及び副会長、大韓機械学会熱工学部門会長及び副会長、韓国燃焼学会理事、韓国自動車工学会理事及び英文ジャーナル編集委員等、多数の学会活動に取り組んでいる。また、2021年にはミネソタ大学にて国際優秀リーダーシップ賞（Distinguished leadership Award for Internationals）を受賞した。以上の通り、鄭氏は、工学分野の発展に大きく貢献し、高麗大学校及び大韓民国の発展のためにも多大な功績を上げている。

高麗大学校と早稲田大学は、1962年から開始したサッカー定期戦をきっかけに、1973年に学術交流協定を締結し、長きにわたり、学術、スポーツ、文化活動において交流を行っている。協定締結以来絶えることなく培われてきた両校の交流関係は、鄭氏の高麗大学校総長の就任後も、一層の発展、深化を遂げてきた。とりわけ日韓ミレニアムフォーラムは、鄭氏の人脈による多大なご支援によって、日韓の私立大学を代表する高麗大学校、延世大学校、慶應義塾大学、そして本学の4大学が交流する貴重なプラットフォームの礎が築かれた。名実ともに、鄭氏の貢献は早稲田大学と高麗大学校、ひいては日本と韓国を繋ぐ「友好の懸け橋」である。

「世界で輝く WASEDA」として、世界へ貢献する大学を目指す本学にとり高麗大学校は最重要パートナーであり、今後も更なる交流活動の進展が期待される中で、両校の交流関係を一段と揺るぎないものとし、本学の国際化にも大きな寄与が認められる高麗大学校総長・鄭氏に本学名誉博士の称号を贈呈することは、誠に時宜に適っているというべきである。

ここに早稲田大学は、鄭眞澤氏に

名誉博士（Honorary Doctor of Science）の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)

2022年10月23日

早稲田大学